

平成27年度第2回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第2回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見をいただきました。

1 日時及び場所

平成27年8月6日（木）
近畿中国森林管理局4階第3会議室

2 議題

- （1）近畿中国局管内の需給動向について
- （2）国有林材供給調整の必要性について
- （3）その他

3 議事概要

《検討結果》

住宅建設は持ち直しの動きがみられるが、木材関連は低水準で推移している。合板の減産等があり一般材の需要は低水準にあるものの、天候不順による出材の減等により、国産材の流通在庫は徐々に調整が進み、原木価格にも一部底値感が見られる。
国有林材の供給調整の必要性は認められないが、引き続き市場動向を注視していく必要がある。

〈主な情報、意見について〉

○国産材の供給及び価格の動向について

- ・和歌山県内では7月に雨が多く、又、伐り控え等もあり山からの出荷が減っている。
- ・岡山県のヒノキ価格は7月の雨の影響で小幅に反発した。
- ・新規に新見に開市した津山総合木材市場は始めこそ出荷量を確保したが、それ以降集まりが悪く、今では計画の50%程度に落ちている。
- ・和歌山県では梅雨期に気温が低かったせいか、例年のような鉄砲虫が発生していない。
- ・7月の台風後の大雨の影響で出材が少なく、特にヒノキの土台がなくて無いもの高で高値になっている。
- ・小径木は山元より直送されている。
- ・役物の供給不足が慢性化している。

○原木需要分野（川下）の動向について

- ・岡山県の1月～6月の住宅着工戸数は回復したものの、木造や在来工法等は少ない。
- ・全国的には在来木軸が戸数では今年3月から増えているが、面積ベースでは減少している。
- ・プレカット業界は優劣がハッキリしている。
- ・大手ビルダーは着工数でいうと回復傾向であるが、地方ビルダーの仕事量はまだまだ回復していない。
- ・製品は底値感を感じている者は買いに出ている。
- ・コンクリート用型枠の表面にはヒノキが良いが、最近ヒノキは七尾港から韓国向け

に輸出されているのが現状。国内利用を優先し、製品で輸出すべき。

- ・合板価格は6月中旬まで650円だったが、減産効果もあり8月は、800円まで回復した。
- ・合板メーカーは減産を継続しているが、出来る限り国産材入荷を減らさないよう、努めている。
- ・NZ材が高値なため、梱包材にスギの需要がある。

○その他

- ・北米材は、産地で冬季に雨や降雪が少なく、大きな山火事が発生しているため、出材が減っており、値上げが唱えられ、毎月上がっている。
- ・ホワイトウッドKD間柱の価格が上がっているのは、現地での原木輸出抑制等により不足感が強まっているため。今後はスギの集成材に換わっていくのではないかと考えている。
- ・ヒノキのラミナ需要が予測される一方で、ヒノキ原木は出材が少ないことから、システム販売で長期契約を結び、安定供給が出来ないかと考えている。